

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191000231), 法人名 (社会福祉法人 北海道友愛福祉会), 事業所名 (グループホーム ゆうあい ななかまどユニット), 所在地 (江別市豊幌美咲町23-14), 自己評価作成日 (平成29年8月4日), 評価結果市町村受理日 (平成29年9月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者一人ひとりが自分らしく生活を送れるよう会議や日常的に話し合いをしている。
・施設併設の管理栄養士による食事提供の為、栄養面や豊富なメニューが揃っている。
・調理が少ない事で入居者様との時間を多く持つことができ、個別に関わる時間がある。
・中央に大きな交流ホールがある為、行事やボランティア活動が容易に可能。
・花壇や畑が完備され入居者様が容易的に利用できるようになっている。
・近くに公園があり、休日は子供達が楽しく笑う声が聞こえてくる。
・めずらしい動物が裏庭に現れる事がある。
・住宅街に立地しているが緑に囲まれて日中でも夜間帯でも静かな環境で過ごす事ができる

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kani=true&JigvosyoCd=0191000231-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年8月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より、地域密着型サービスの意義と理念の学習会を実施している。実践に向けて取り組みをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者が地域との繋がりが持てるよう買い物や散歩、地域の行事に参加している。認知症カフェの実施により、地域の方と交流する機会が増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェで認知症の理解や介護相談を実施し、福祉事業所として、地域の人々に向けて活かせる場を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや施設状況、事業所の在り方などを会議を通して報告し、取り入れられる意見はサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度、事業所の現状を報告し伝えている。その他、市町村担当者と積極的な取り組みが実施されていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準の身体拘束禁止行為を理解し、身体拘束ゼロ委員会、研修会に参加する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を通し、学ぶことができています。また、ユニット会議時、就業中の行動が虐待に繋がっていないか検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の学習の機会が少ない。理念にその人らしい生活ができるよう日々、話し合い、会議を通し、支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人・家族面談を行い、契約等の説明は補足を入れながらわかりやすく伝達している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があれば、会議を通して検討し、可能であれば、運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム職員全体会議を毎月開催し、施設長・管理者が職員の意見・提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の人事考課面談を通じて、職員個々の努力や向上心を把握し、職員環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外のケアに関する学習会に参加機会を確保する他、ケアの症例研究を奨励支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームの連絡会(あおいの会)に加入し、ネットワークづくりやサービスの質向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が新しい環境に慣れていけるように、職員とのコミュニケーションだけではなく、他入居者の会話の仲介等に心掛けている。本人が出来る事・出来ない事、好きな事・嫌いな事、要望・不安・困っている事が把握出来るように日々関わり、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、面談を通し本人と家族の想いの相違やそれぞれの訴えを真摯に受け止め、入居後の良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等の要望や現状をもとに必要なケアをみきわめ、アセスメントを活用し対応していく。また、必要があれば、ケアの調整をする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係をなくすためにも、会話の仲介や他者との関係を円滑にできるよう展示物の作成・体操等を通し、関係を構築できる支援をしている。また、一緒に過ごす中で個性を発揮でき、本人の暮らし方や意向を知るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方の立場に置かず、ご本人の意向や訴えをご家族とも話し合い、協力できる関係性を保てるよう努めている。また、共に安心できる環境作りができるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会、外食や美容室、地元へ外出する等、家族の協力をもらいながら、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように共に壁画作りや展示物の作成を日常的に行うことで利用者同士の関わりを増やしている。また、会話の仲介に職員が入る事で利用者間の会話が生まれるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所や在宅復帰等で退居となる場合は、家族や他機関への情報提供を事前に行い、必要時は本人への説明を行っている。また、退居後も相談や必要な情報提供等の対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との対話、家族からの聞き取り、職員間での意見交換を行い、バックグラウンド等を理解し考え、意向や思いを汲み取り把握することで希望の実現に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が自分らしく生活していけるよう支援する為に生活歴やサービス利用にいたった経過を知り、職員が本人や家族との馴染みの関係をつくりながら、日々の生活を支えていくよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体変化・一日の暮らしの流れにそった状況を把握し、本人の能力に合う得意とすることを発揮できるような環境作りを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安全、安心に過ごせるように本人、家族の意見を他職員と話し合い臨機応変に現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日行っている。また、申し送りを通して情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニットの特性を活かし、単一のサービスだけでなく、その時々ニーズに柔軟かつ即応性のある支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の買い物職員と一緒にしている。訪問での往診や理美容、ギターやハンドマッサージボランティアの定期的な訪問、毎月行われる認知症カフェへ参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前に利用していた医療機関での受診を基本とし、入居後も関係を断たぬよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護を通じて、気づきがあれば、看護師に相談し適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活動作や医療状況がわかるように書面等で情報交換を行い、入退院に向けて良好な関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期を迎えられる場合は、ご本人やご家族の希望に添いながら、事業所で暮らす為の方向性を確認し支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で学んだり、職員個別ではあるが救急救命の講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震などの避難訓練・夜間避難訓練を行い避難方法や避難場所の確認を行っている。また、地域の消防団と合同の訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。また、言葉かけや対応に関して、毎月の定期的な会議にて検討を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の意思を尊重し、意思表示が難しい利用者には表情やジェスチャーから意思の理解に努めている。また、いくつかの選択肢を提示しそれを選択して頂くことで自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールで活動し、その日の気分や各自の体調やペースに合わせて声掛けを行い、その時の気持ちを大切にしながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容を通し自立維持・全体的状態の安定を図っている。本人の自己決定による衣服を着ることにより、精神的向上に繋がるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嚥下状態に合わせ、食べにくいものは食べやすいように形状を変え、好みではないものはご本人から聞き、厨房と共同し対応している。行事等で食材を選ぶ、切るなどの調理を実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日記録し、不足気味な方には嗜好品等で一定量を補えるようにしている。また、形態を工夫し摂取して頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い義歯洗浄・うがいを職員が促し、ご自身で口腔ケアをされている。また、必要に応じて介助することで口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄の記録を行い、失敗しない事や出来るだけおむつを使用しないように定期的に検討を行っている。また、出来るだけトイレで排泄が行えるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取、食事の際の乳酸菌飲料の提供を行い、個々に応じた運動やトイレへの誘導(時間帯、声掛けの工夫)を行い、便秘の予防、改善、対応に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決定しているが体調を考慮しタイミングをみながら声掛けをしている。入浴ができない場合は次の日に入浴をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人にとって自然なリズムで過ごせるよう生活環境が整っており、1人ひとりが必要な休息・安眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を理解し現状の症状に沿って上司や医務と連携し都度対応できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今出来る事を活かしたお手伝いや趣味活動の支援をしている。行事や散歩、ドライブ等の気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物、外気浴など戸外で気持ちよく過ごせるように努めている。また、利用者のニーズに合わせて家族や地域と連携し、行きたい場所へ外出できるように支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金の所持はお断りしている。本人や家族から強い希望があった場合は、本人の力を検討し、同意書に署名を頂いた後、所持や使用の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連携を取りながら、時間帯、曜日等を決定し、本人の思いに寄り添いながら可能な範囲で外部との交流を支援している。また、電話を掛けられる能力を有する利用者には見守りのみを行い、自然と使用できる環境作りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱などの不穏な状況にならないようその都度、ケアを見直し、共用空間には十分な配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや地域交流ホール等の共用空間にはソファや椅子を設置し、自由に過ごせる空間にしている。配置は少人数で話せる形や、1人で外を眺められる形を取っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や、思い出の詰まったアルバム等を持参して頂き、個室での時間の使い方を上手く使えるよう工夫している。また、ベッドの配置、トイレの位置も家族との相談等で使い慣れた位置に決定している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体・認知機能が低下しても安全な状況下で自立した生活ができるようにご本人の状態を把握し心地よく行動ができる工夫をしている。		